

エムエスピーの履歴書

水谷政司 ⑦

いよいよ「登録システム」との出会いが始まります。とはいっても、まだエムエスピー設立前のことですが、ここは触れておかないといけません。

歴史アーカイブス

を説明いたします。会社勤めでのパソコン担当者として数年経過した頃です。パソコンのハードウェアは PC-9801 の 16 ビットとなり、パソコンは「おもちゃ」という認識も随分と改まり、パソコン中心のクライアントサーバー (CS) モデル」という考え方が出てきました。パソコンは CAD やワ

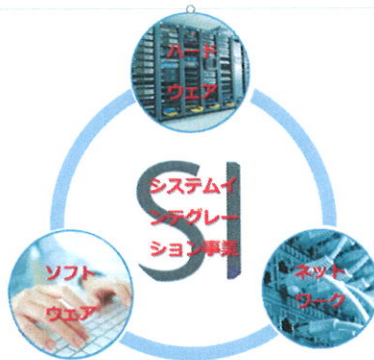
ードプロ、通信機器、経理などの業務や輸出入業の専用機器、データベース、表集計、グラフ化など多岐にわたり利用され「利便さ」が浸透してきた時代

登録システムとの出会いは突然に

登録システム、アプリライタの誕生と自販連との出会
ある時課内のメンバーから「登録行政に利用するホストコンピュータの入替に伴い、申請方法を OCR 用紙に切替える」との報告があり、しかもその OCR プリンタが日本
タイプライタの DLQ プリンタとなる仕様がニユ

紙を作成し、支局に登録を行う業者専用システムの開発が必要であることがテーマとなりました。登録行政では NTT と NEC が MOTAS を開発・管理しており、その MOTAS の国側の管理業者が「自動車検査登録協力会(自検協)」に接触を

ースされていきました。会社ではワープロのパッケージを提供していたのでワープロ機能を一部変更して OCR シート作成専用システムを安価に提供することが決定され、社内にて開発プロジェクトが発足しました。行政書士などの申請用



持ち登録業務専用【アプリライタ】システムを開発することになりました。開発に当たっては、自検協グループの中で新規の登録を中心に行っている日本自動車販売協会連合会(自販連)の多大

なる協力を得て、登録に係る細かい種別に対応できるようにプログラムで対応、登録業者の規模を勘案した安価なシステムが求められ、申請量の多い業者向けには数台の DLQ プリンタの接続が

可能とし、関係者の要求を満たすことが必要でした。当時パソコンでは難しかったプリンタコントローラも開発しました。熱海のホテルで開催された登録業務勉強会にこのシステムの出品が許され、登録関係業者の方々に説明できた時は開発に徹夜した苦勞も吹き飛んだことを思い出します。

オフコン利用のシステムもありましたが、価格が高いうえに県別の修正など小回りに対応できず、うたい文句にしていた税申告書の作成や会員や購入者への請求・精算業務に問題を残しました。結果、パソコンとサーバー利用のクライアントサーバーモデルに発展してゆきます。(エムエスピー相談役)